

「高野連」の教育観の諸矛盾に関する研究

—「高体連」との比較をととして—

21 世紀スポーツ文化研究会

2008 年 3 月 21 日

田寺 泰久（日本体育大学大学院）

I. 問題の所在

本研究は、「高野連」の掲げる教育観が、今の時代や社会の要請する教育観にそぐわないために生じていると考えられる諸矛盾について、「高体連」の教育観との比較をととして明らかにすることを目的とする。

高校野球では、個人的な不祥事の際にも連帯責任を問われることが多い。また近年の高校野球では、選手のファッション、地域の企画した行事、野球特待生の是非論などが取り沙汰されている。

一方、「高体連」に所属している競技種目では、このようなことが問題視されることはほとんどない。「高野連」と「高体連」の教育観は、スポーツをととして高校生の教育を行うという点では同じものであるはずである。

そこで、本発表は、「高野連」と「高体連」を多角的に比較分析し、「高体連」の教育観との比較をととして、「高野連」の教育観の諸矛盾の根源にあるものを明らかにしようとするものである。

II. 「高野連」と「高体連」の教育観の比較

1. 両連盟の寄附行為の比較から

- ①「高野連」は「高等学校野球の健全な発達」を図ることを目的。「高体連」は「高等学校生徒の健全な発達」を図ることを目的。
- ②「高野連」と加盟団体の間には上下の関係がみられる。「高体連」と加盟団体との間には並列の関係がみられる。
- ③「高野連」では体育諸団体に対して特別意識が見られる。「高体連」では一般アマチュア団体に対して対等意識が見られる。
- ④「高野連」は閉じた団体。「高体連」は広く国際社会にも開かれた姿勢。

2. 両連盟の会長らの発言の比較から

「高野連」は時代の変化を汲み取るのが遅れ硬直化。「高体連」は時代の変化にあわせ柔軟

に対応。

3.両連盟の役員等の構成メンバーの比較から

- ①「高野連」では朝日新聞社の関係者が役員が多くを占めている。「高体連」では教育関係者が大半を占めている。
- ②「高野連」は歴代の会長がわずか。「高体連」は多数。

Ⅲ.両連盟の不祥事に対する対応

1.不祥事に対する「高野連」の対応

- ①野球部員以外の者が起こした不祥事にも拘わらず、野球部員への処分を了承していた
- ②一部の者が起こした不祥事にも拘わらず、連帯責任を負わされる。
- ③上級生が起こした不祥事にも拘わらず、下級生がその責任を負わされる結果となる。
- ④1990年代に入り、「高野連」は不祥事に対する厳罰化の緩和の傾向あり。しかし、依然として出場辞退の了承や謹慎や対外試合禁止など連帯責任として処罰しているケースがある。また「高野連」は、上からの処分もあり。

2.不祥事に対する「高体連」の対応

「高体連」は、各高校の判断に任せている。

Ⅳ.「高野連」の教育観と現場との乖離

1.高校や他の団体との乖離

「高体連」では下からの声を吸い上げるシステムがあるが、「高野連」にはそれがない。さらに、スポーツ特待生問題についても「高野連」と各高校側、世論との意識の差は大きい。

2.ファンや地域との乖離

高校野球では着ぐるみでの応援は禁じられているが、例えば高校サッカーにおいては、着ぐるみで応援しても問題にされることはない。優勝校、準優勝校に対する地域の人々による善意のお祝いの会が「高野連」の要請から、縮小または変更された。しかし、「高体連」に加盟している競技種目では、いずれもこのような問題は起こっていない。

3.野球部監督達との乖離

不祥事によって関係のない部員が責任を取る形で出場辞退に繋がった件について、出場校の監督たちは、その選手達を気遣い、出場できないことについて総じてやるせない思いのコメントを寄せていた。